

過去の地震から知る、未来の備え ～大被害地震が連続して起こる？

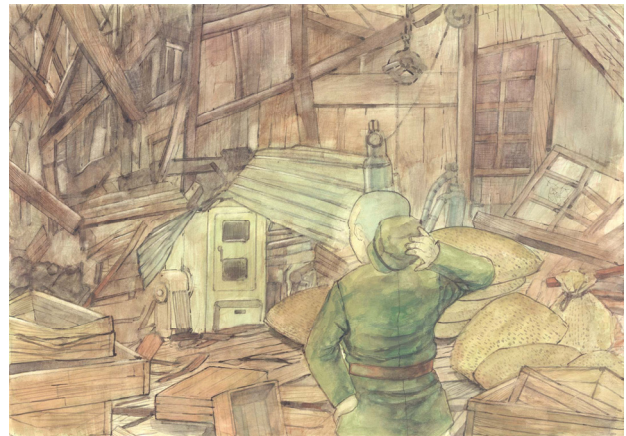
名古屋大学災害対策室 木村玲欧

未来の地震にそなえるためには、過去の地震を知ることが大切。1945年にこの地域で2,306人の死者を出した「三河地震」から、未来の備えにつながる教訓を考えていきます。

■東南海地震(1944年12月7日)で、家業の精米・製粉・製めん工場が全壊した。それから37日、やっと修復をした翌朝、三河地震(1945年1月13日)で再び工場は全壊してしまった。2度の全壊被害で、もはや工場の続行は不可能だった。(明治村西端集落(碧南市湖西町)・原田三郎さん)

12月の地震で実家の工場が壊れたもんだで、東京で近衛兵をやっていた私は、正月休みを利用して帰省して、急いで復興作業をやっただね。その甲斐もあって「明日の朝完成」というその夜中、今度は直下型(地震)が来たわけですね。

2回の地震で、工場が2回とも壊れたもんだで、昔からやっていた精米・製粉・製めん業ができなくなってしまった。機械は親父が農協に売り払ってしまった。終戦後、私が東京から帰ってきたときには、商売は農協がやっていたもんだで、結局、小売業に転業しました。



絵 阪野智啓

東海地震・東南海地震・南海地震という「海溝型地震3兄弟」は、同時に起きたり、続けざまに起きることが知られています。1707年宝永地震では、3つの地震が同時に起きて、駿河から延岡にわたって家屋が倒潰する被害がでました。また1854年安政地震では、東海地震が発生した32時間後に南海地震が発生しました。さらに昭和では、1944年東南海地震の2年後に1946年南海地震が発生しました。

また、その仕組みは詳しくはわかりませんが、海溝型地震の前後に内陸で地震活動が活発になり、直下型地震が発生することも知られています。1944年東南海地震の37日後に1945年三河地震が発生したり、1854年安政伊賀上野地震の5ヶ月後には1854年安政東海地震が発生しました。これらの連続する地震は、本震の後の余震のことではありません。大規模な被害をもたらす大地震が連続して被災地を襲うのです。

災害発生後、私たちのすまいと暮らしを守るためには、このような「地震が連続発生した場合のシナリオ」を考える必要があります。明治村城ヶ入集落(安城市城ヶ入町)の岩瀬繁松さんは「東南海地震で柱と梁をつなぐ『ほぞ』が壊れて家が傾いてしまった。直そうと思っているうちに正月になり、そうこうしているうちに三河地震が来てしまって、結局、家は全壊して母は亡くなってしまった」と証言しています。地震が起きたあと、私たちはマスコミ・研究者などから情報を集めて、危険な建物にはとりあえず数日間立ち入らない、早急に耐震性を強くするように家屋の修理・補修をする、避難・備蓄の再確認をするなど、地震直後でも「次の地震への備え」が必要になるのです。